

令和4年度「学生と学長との対話」概要

本学では、これまで、令和2年度、令和3年度に「学生と学長・副学長との対話」を実施し、学長及び副学長が学生の生の声を直接聞き、学修環境や学生生活など様々な意見や要望に対応して参りました。令和4年度は、さらに、学生との対話を深め、学生が充実した大学生活を送れるように、学生と教職員が一丸となって富山大学の教育の質向上を図り、大学運営に反映させることを目的に「学生と学長との対話」を実施することとなり、2つのテーマに基づき、学生と学長が意見交換を行いました。

その概要について取りまとめましたので、公表いたします。

令和4年度 学長と語ろう—魅力ある大学をともにつくろう—

日 時：令和4年12月21日（水）13：30 ～ 15：05

会 場：共通教育棟 B21 番教室

参加者：学生（19名）、齋藤学長

陪席者：磯部理事・副学長、武山理事・副学長

学長の挨拶の後、まず、テーマ1「本学でどのような学生生活を送りたいか」について各学生の意見を聞きました。学生からは、①幅広い知識を得ること、②他者（他学部、他学年、地域、他国など）との交流を求める意見が多く上がりました。

続いて、テーマ2「本学の魅力は何か。また、魅力のある大学にするためにはどのようにしたら良いか」について議論を行いました。テーマ1とも関連して、各学生から「他者と交流できる環境」が本学の魅力であり、交流を深めることがさらに魅力のある大学になるとの意見が多く上がりました。

一方で、「大学には主体性が高い学生と主体性が低い学生がいること」や「学生自身が、今学んでいることが本当の自らの学びに繋がっているのかを理解できていないのではないか」といった問題提起が行われました。

また、対話の中で、学長から、「学生には必要な知識・能力を身に付けて卒業し、社会で活躍できる人材になってほしいという思いから、教育の3本柱を掲げて大学運営を行っている」との説明があり、これに対して、学生から、学生には浸透していないのではないかという意見が出されました。

今回の対話を通して、大学の方針が学生に必ずしも十分に伝わっていない、受け身の学生が多いという課題が出されたため、学長の提案により、学生がより主体的に発信できる環境づくりを行うと同時に、大学の魅力発信に取り組むために、再度「学生と学長との対話」の機会を設けることとなりました。

各学生の意見及び学長の発言の概要は以下のとおりです。

＜テーマ1＞皆さんは本学でどのような学生生活を送りたいですか。

○学生の意見

◆幅広い知識を得る

- ・ 広い学問的知識を得たり、様々な思想に触れたりして柔軟な思考を持ちたい。(人間発達科学部・2年)
- ・ 社会人になって活躍できるよう知識や経験を培うことができる学生生活を送りたい。(経済学部・4年)
- ・ 自分の専攻している学問だけでなく、幅広い学問を学ぶ学生生活を送りたい。(理学部・4年)
- ・ 時代の流れに左右されない教養を身に付けるとともに、専攻分野にとらわれず幅広い知識を得たいと考えている。(医学部・3年)
- ・ 学業では複数の科目、分野の知識を幅広く学び、社会の変動に対応できる基礎を身に付けられるようにしたい。また、自身の学部における専門性も高めたい。(薬学部・5年)
- ・ 主体的に行動し、自分の専攻する学問にとらわれず様々な経験をする事で自分の強みを理解し、社会に出てそのスキルが生かせるのではないかと。(工学部・4年)

◆他者（他学部、他学年、地域、他国など）との交流

- ・ 留学生として、日本の学生と教員の方々と勉強以外の時でも交流または意見交換などをしたい。イベントやプログラムを通して新しい人と出会い、考えや意見を交換できるような大学生活を送りたい。母国の文化、宗教などについて本学の学生たちに紹介したい。(人文学部・2年・留学生)
- ・ 学内交流やアルバイトを通して、地域や年代、境遇に縛られることなく多様な人々との交流を重ね、互いが助け合って共存するために何が必要か考えていきたい。(人間発達科学部・2年)
- ・ 他学部・他学年・他大学・他国籍の学生との交流が盛んな大学生活を送りたい。(経済学部・4年)
- ・ キャンパス内には複数の学部が存在するため他学部の学生と交流して交流の場を広げられる学生生活を送りたい。(理学部・4年)
- ・ 自学科内だけではなく、他学部の学生とも交流を持ちたい。今回のような全学部の学生の集まる機会は貴重でありありがたいと感じている。都市デザイン学部主催「全学横断 PBL」のような講義が行われているのも良いことだと思う。コロナ禍によって課外活動が以前よりも下火になっている。COVID-19 が収束したら、富山大学の他キャンパスや他大学との交流をもっと持ちたい。また、キャンパスが異なると移動もあり受講できる科目に縛りがあるので、オンデマンドで聴講できる講義があれば嬉しい。(医学部・3年)
- ・ 学部、コース関係なく友好関係を築ける、大学でしか作れない思い出、経験ができる学生生活を送りたい。(芸術文化学部・3年)

◆「全学横断 PBL」(都市デザイン学部主催の授業科目)について

- ・ 参加したかったが、必修の授業や就職活動で受けたくても受けられなかった。
- ・ 3年生対象となっているが、1年生や2年生で参加できないか。

【学長】

- ・ コロナがあり、3年間ぐらい留学生向けの交流の機会を設けることができなかったが、もっと留学生と交流できる機会を作りたいと考えている。
- ・ 広い学問知識を得たり、様々な視点に触れたり柔軟な考えを持った人材が現代社会では求められている。広い知識プラス、自分の専門を学び、両方持つような形で学んでほしい。
- ・ 教養教育は何のためにあるのかを考えていかないといけない。教養教育は土台となる部分であり、土台となる学問を活用して、専門教育を発展させることができる。しかし、この土台が疎かになってきていると感じている。しっかりと学問の土台を身に付けてもらうため、教養教育の改革を進め

ているところである。

- ・日本では理系に進学する女子が少ない。海外と同じように女性にどんどん活躍してほしい。性別だけでなく、国籍の違いなど、異なる立場で物事を見るとそれぞれ違う発想が生まれる。それを強みに自分の発想を発信してほしい。
- ・本学が教育の三本柱として掲げているアクティブラーニングの教授法による能動的学びの促進、英語力、データサイエンス（DS）は、社会に出た時に必要なものである。自分の長所としてアピールできるようにしっかりと身に付けてほしい。文科省に認定されているDSプログラムは1、2年生が対象であるが、上級生についてもDSの力を身に付けられるように考えたい。
- ・「全学横断 PBL」は、アクティブラーニングを実践する科目であり、幅広い学問を身に付け、他学部の学生と交流できる科目である。全員が受講することは難しいが、意欲ある学生にぜひ参加してほしい。現在3年生を対象に実施しているが、実施時期の移動が可能かどうかともあわせて検討したい。

＜テーマ2＞（テーマ1のような学生生活を送るために）本学の魅力は何でしょうか。さらに魅力ある大学にするためにはどうしたらよいでしょうか。皆さんは本学でどのような学生生活を送りたいですか。

○学生の意見

- ・学生の主体性が落ちていると感じている。富山大学は、外国人留学生の受け入れや留学支援など、国際交流に力を入れているので、留学生と関わる機会を大学側が積極的に設けることで、学生が自らの学問への意識を見つめ直し、主体性を重視し始めるきっかけを提供することができると思う。（人文学部・3年）
- ・本学の魅力は、他機関との繋がりが豊富である点である。富山県の教育センターや中学校、適応指導教室での実習をさせて頂き、職員の方にアドバイスをもらいながら学校に行きづらいつと感じている児童・生徒への適切な関わり方やその環境づくりについて深く考えることができた。（人間発達科学部・3年）
- ・新型コロナウイルスの影響でオンライン授業という新しい形ができた。今後、もっとオンラインやオンデマンドを活用したらもっと良くなることはないか。基本的な学習内容（知識）や、wordなどを学ぶことができる自習用のコースをオンデマンドで配信するなど、知りたい人がいつでも触れられるものがあったら良い。（経済学部・2年）

【学長】

私としては、オンデマンドでやるだけではなく、できるだけ対面の授業を行ってほしいと言ってきました。しかし、これからは、基本的なことはオンデマンドである程度自己学習してから大学に来て、それを実際に使ってみるような形に変換して行くことが必要だと思っています。コロナ禍があって、遠隔授業が普及したことは良い点です。大学としても、サーバーの容量を増やし、できるだけ対応してきました。今後は、対面とオンラインやオンデマンドを併用することが求められると思っています。オンデマンドやオンラインのより良い使い方についてすぐにでも考えていきます。

- ・富山大学の魅力の一つとして多くの学部・学科があるという点があげられる。また、理学部には毎年行われているサイエンスフェスティバルがあり、様々な学科の方や一般の方とも交流ができる。サイエンスフェスティバルの来場者の多くは富山市の方であるため、隣接する市町村からもさらに増えるよう広告などができればさらに魅力が増すと思う。（理学部・2年）

【学長】

多くの人に来場してもらうことでやりがいがあると思います。学部の方で広報するように対応します。

- ・富大は薬学の歴史が深く、和漢薬も学べることはとても大きな魅力である。しかし、看護学科は漢方医学について学べる時間数がないので 1 年生の時などに教養で増やしてもらえると嬉しい。また、県外出身者の学生がとても多く、自分の地元と、富山の違いを知ることによって将来に生かせると思うので、富山に関することを学べる教養科目があったら良い。(医学部・1年)

【学長】

富山を知る科目は、すでに教養教育にあるのでぜひ選択してほしい。和漢薬の科目も教養教育で選択できるので、うまく時間調整していただきたい。

- ・最近では授業でのディスカッションが増えているので、ただ聞くだけの授業でなく、自分で考え、議論し、まとめ、発表することによって、思考力やコミュニケーション力の育成ができ、社会に出てから必要とされる能力が身につくと思う。
もっと魅力ある大学とするためには、新しい議論の場を、学年間でもっと増やせないかと考える。将来専門家となった際、専門的な知識を持たない人に対して説明するといった場面が起こり得ると思う。何かのテーマに対する議論を、同じグループで1年生から上級生までいる状態で行ったら、上級生は、初学者の1年生に丁寧に説明する必要があり、その難しさに対面することができ、1年生は上級生を見習い、目標とすることができ、また、全く新しい視点を持つことも可能だと考える。これが実現したら富山大学の大きな魅力として発信できると思う。(薬学部・4年)
- ・富山大学では、定期的な活動やイベントがあり、日本人と留学生が交流できている。工学部でも英会話カフェというイベントがあり日本人の英語力上達にも良い。さらに魅力ある大学にするためには、英語や日本語のプレゼンテーションやスピーチコンテストを開催するのが良いと考える。そういう機会がほとんどないので、定期的にスピーチコンテストを開催して、留学生と日本人と一緒に集まって互いに教えることで、学生たちの英語能力やコミュニケーション能力を高めることができると考える。(工学部・4年・留学生)

【学長】

日本人の学生には、特に積極的に交流していただきたい。お互いが教え合うことでお互いを知ることができることは、非常に重要です。留学生も含めた形で、スピーチコンテストやプレゼンを行う機会を企画したいと思います。

- ・主体性がある学生とそうでない学生の差がどんどん開いている現状を感じている。大学生として、専門性の前に、人としての成長というところを、大学はどう保証し、学生の就職時に担保していくのかということを見える化していただきたい。
三本の柱（アクティブラーニング、語学力、データサイエンス）は、学生までおりにきてない印象である。全学横断PBLを受けたが、84人しか受けていなかった。その中の24人以外は全員都市デザイン学部で、それが異文化交流、融合になっているのかというと正直疑問が残る。
また、データサイエンスが学生の学びとか成果に繋がっているのかというと、疑問が残る部分がある。その辺の話を、学長先生も含め、大学運営されている先生方が直接学生から聞く機会があんまりないのではないと思う。大学全体の運営について学生と先生方、職員の方が直接交流できる機会、対話の機会をもっと増やしていくことが、魅力ある大学につなげていく上で必要ではないかと思う。(都市デザイン学部・3年)
- ・学内の交流は五福キャンパスでは高まっているが、1年生の高岡キャンパスでの交流が薄れてきている。学祭の前日は、全キャンパスで休講にしてほしい。(芸術文化学部・3年)

【学長】

3キャンパスで別々に実施している大学祭を一つにできないか。各キャンパスの学生が一つのキャンパスに集まって作業することで、より一体感が増すのではないのか、例えば、3年ごとにキャンパスを回して開催するやり方もあるのではないのか。

【学生】

- ・一つにするメリットもあると思うが、別々にするメリットもある。
- ・実施日が違うことで、各キャンパスの大学祭を運営している学生が、別のキャンパスを見に行くことができることは良いことだと思う。統合して各個別のキャンパスのものをなくすのではなく、現行の1週ずつずらず開催体系に加えて、3キャンパス合同でできるようなものを追加するという形にした方が良いのではないかと思う。
- ・3年ごとに回していくと、関わっていた学生が卒業し現状の引継ぎができないので、難しいのではないか。

○学長の発言（まとめ）

・大学は高校とは違うので、より勉強したい人はどんどん伸びるし、最低限の単位だけ取れば良いという人はどんどん遅れてしまい、差が出てしまう。やはりみんなで、主体的学びの姿勢を学生の時に身に付けて、社会で活躍してほしいと思っています。

・時代が変わる中で、教育においては、皆さん方全員に、まず「アクティブラーニングの教授法による能動的学びの促進、確かな英語力とデータサイエンス力の獲得」が必要であると考えています。本学ではこれら（アクティブラーニング、英語力、データサイエンス力）を「教育の三本柱」としています。このことは、もっとしっかりアピールしたいと思います。また、さらに充実させていきたいと思っています。それから「総合知」が大事です。一つの目的（課題）に対面したときに、様々な分野の人が集まることで、見えなかった視点が生まれ、物事が動き出します。色々な知識の修得とともに、周りに集まってそれぞれの力を発揮できる人になって欲しいです。それはぜひ大学で身に付けてほしいと思っています。だからこそ、教養教育で土台になるものも必要であるし、自分の得意分野も必要になります。

・それから、皆さんは、9学部もある総合大学にいますので、やはり学部間の交流を深めてもらいたい。色々な学部の人材が揃っている中で、その中で様々な意見を戦わせて一つにまとめるようなトレーニングを大学時代にさせていただいたら面白いと思います。また、富山大学には留学生もいるので、ほかの国の方の意見も聞きながら、その中で物事を解決していくということも、ぜひ学んでいただきたいと思っています。

・本日は、ありがとうございました。